



ユニチカ株式会社

2026年3月期 決算説明資料

2026年5月26日

- 1 決算のポイント**
- 2 2026年3月期 決算概要**
- 3 事業再生計画の進捗状況**
- 4 2027年3月期 業績予想**

2026年 3月期 実績

- ▶ 全社売上高は事業譲渡等の影響により1,186億円（前期比▲78億円）となったものの、高付加価値・高機能製品の拡販や価格改定の実施により、継続事業では増収を達成した。
- ▶ 高付加価値・高機能製品の拡販や不採算販売の見直し、価格改定の推進に加え、コストダウン施策の効果により営業利益は105億円（前期比+47億円）と大幅な増益を実現した。
- ▶ 営業利益の増加に加え、外貨建資産の評価益等の為替影響も寄与し、経常利益は104億円（前期比+57億円）と大きく増加した。
- ▶ 構造改革に伴い発生した事業構造改善費用を固定資産売却益や債務免除益が大きく上回り、当期純利益は182億円（前期は▲243億円）となり、大幅な黒字に転換した。

2027年 3月期 業績予想

- ▶ 売上高は840億円（前期比▲346億円）、営業利益は80億円（同▲25億円）、当期純利益は50億円（同▲132億円）を見込む。
- ▶ 構造改革による低採算事業からの撤退により売上高は減少する見込み。
- ▶ 中東情勢の緊迫化に伴う原燃料価格の上昇に対し、コストダウンや生産性向上等の合理化に加え、高付加価値・高機能製品の拡販、不採算販売の見直し、価格改定等を実施し、営業利益への影響を最小限に抑制する方針。

売上高

1,186億円 (前期 1,264億円 / 前期比 ▲78億円)

事業撤退の影響により前期比▲78億円の減収となったが、継続事業は増収を確保。電子材料分野を中心に販売量は増加。食品包装分野の食品需要の落ち込みや海外品流入の影響等を高付加価値品の販売増加で補った。

営業利益

105億円 (前期 59億円 / 前期比 +47億円)

前期比+47億円の増益。営業利益率は8.9% (前期比+4.3%) と大きく改善。高付加価値・高機能製品の販売が順調に伸長。不採算販売の見直し、価格改定、コストダウン施策効果の発現。

経常利益

104億円 (前期 47億円 / 前期比 +57億円)

営業利益の増加に加え、円安の進行に伴う外貨建資産評価益等の為替差益14億円を計上。為替レートは2025年3月末：1ドル=150円に対し、2026年3月末：1ドル=160円。

親会社株主に
帰属する
当期純利益**182億円** (前期 ▲243億円 / 前期比 +424億円)

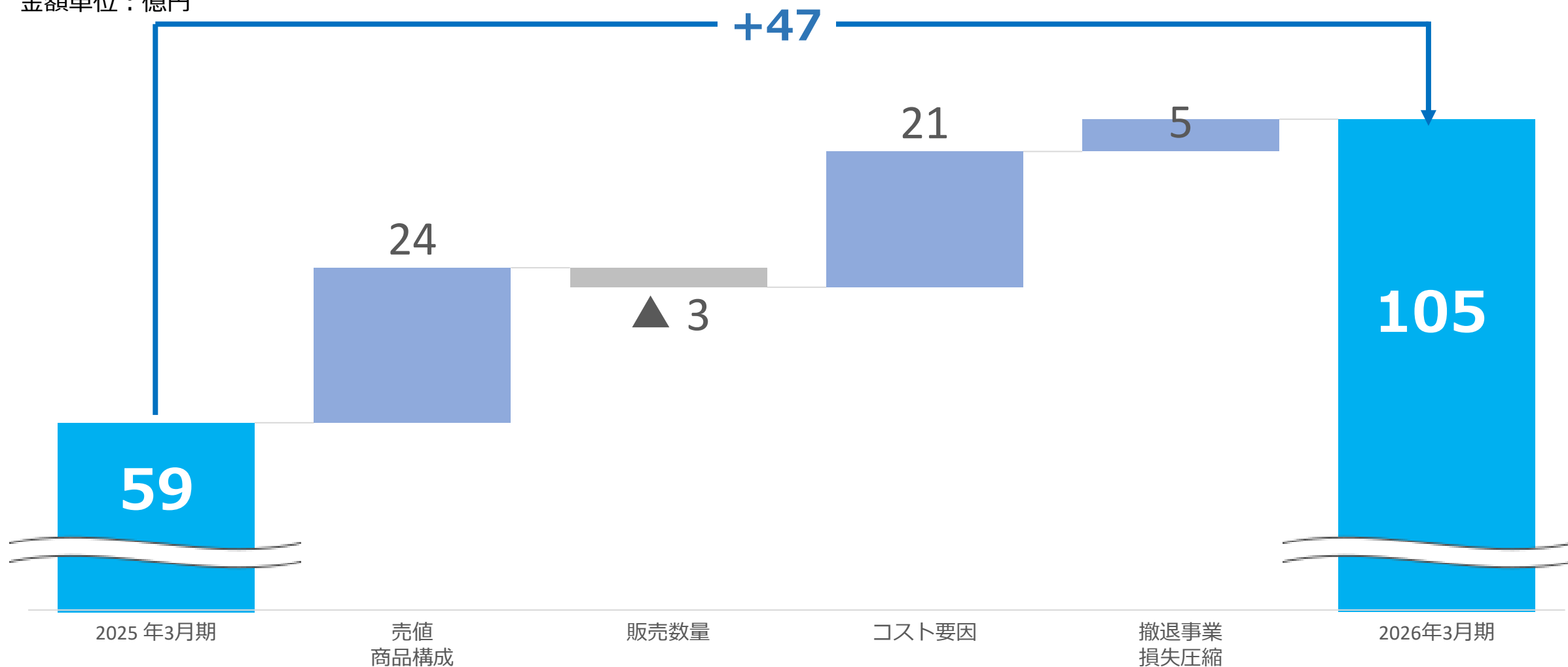
固定資産の売却益237億円、取引金融機関からの債務免除益120億円を特別利益に計上。事業構造改善費用149億円を特別損失に計上。

2. 2026年3月期 決算概要 業績の概要 (2)

連結合計 (単位：億円)	2024年3月期 実績	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	前々期比	前期比
売上高	1,183	1,264	1,186	+2	▲78
売上総利益	189	257	293	+104	+36
営業利益	▲25	59	105	+130	+47
営業利益率	(▲2.1%)	(4.6%)	(8.9%)	—	(+4.3%pt)
経常利益	▲10	47	104	+114	+57
特別利益	0	2	369	+368	+367
特別損失	46	397	154	+108	▲243
親会社株主に帰属する 当期純利益	▲54	▲243	182	+236	+424
減価償却費*	55	46	30	▲26	▲16
設備投資*	68	27	42	▲26	+15

* 減価償却費、設備投資額は無形固定資産分を含まない

金額単位：億円



* エンブレムアジアの4号機廃止に伴う影響は「撤退事業損失圧縮」に含む

(金額単位：億円)	2025年 3月末	2026年 3月末	前期末比 増減
資産合計	1,494	1,507	+13
流動資産	753	870	+117
固定資産	742	637	▲104
負債合計	1,332	967	▲365
純資産合計	162	540	+378
株主資本	123	515	+392
その他の 包括利益累計額	33	23	▲10
非支配株主持分	7	3	▲4

(金額単位： 億円)	2025年 3月期実績	2026年 3月期実績	前期比 増減
営業活動CF	63	56	▲7
投資活動CF	▲31	343	+375
FCF	31	399	+368
財務活動CF	▲4	▲61	▲57
現預金増減	29	342	+313

(金額単位： 億円)	2025 3月末	2026年 3月末	増減
現金・現金 同等物残高	131	473	+342

投資CF：有形固定資産の売却239億円、事業譲渡127億円、他
財務CF：増資200億円、金融機関借入返済254億円、他

2. 2026年3月期 決算概要 セグメント別 業績の概要

セグメント別 (金額単位：億円)	2025年3月期	2026年3月期	前期比増減	
			金額	率
売上高	1,264	1,186	▲78	▲6.2%
高分子事業	554	564	+10	+1.8%
機能資材事業	370	337	▲33	▲9.0%
繊維事業	339	284	▲55	▲16.3%
その他	1	1	+0	+28.2%
営業利益	59	105	+47	+80.3%
高分子事業	60	94	+34	+57.1%
機能資材事業	3	16	+13	+436.5%
繊維事業	▲4	▲5	▲2	-
その他	▲1	0	+1	-

2. 2026年3月期 決算概要 高分子事業の状況

金額単位：億円	2025年 3月期	2026年 3月期	増減
売上高	554	564	+10
フィルム	344	326	▲18
樹脂	138	146	+7
他	72	93	+21
営業利益	60	94	+34

フィルム事業

包装分野は、食品価格上昇等により市場が停滞する中、海外品の流入もあり販売は微減となったが、高機能品の販売は堅調に推移、好調を継続。工業分野は電子材料用途がけん引し堅調に推移。海外では販売戦略の見直しや生産性改善により収益が改善、収益性が向上。

樹脂事業

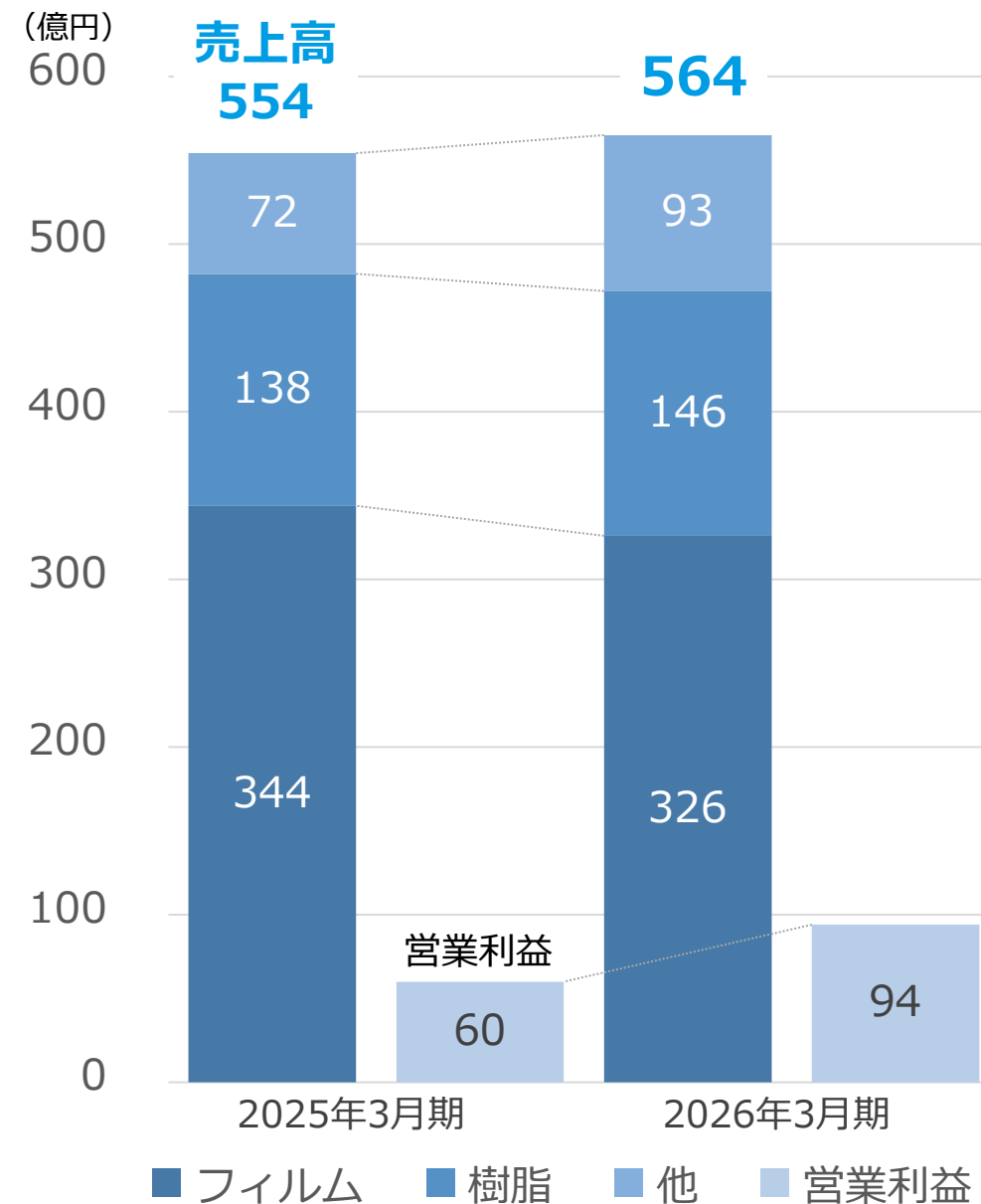
エンプラは電気電子部品用途および自動車部品用途が堅調に推移し販売が伸長。機能樹脂は売上は横ばいながら高機能製品の販売が拡大。

他事業

ユニチカ上海の販売は引き続き好調に推移。特にハイバリアナイロンフィルム「エンプレムHG」の販売が伸長。

セグメント営業利益

高付加価値品の販売が引き続き伸長したことに加え、販売戦略の転換や不採算販売の見直し、価格改定およびコストダウンの効果により増益。



金額単位：億円	2025年 3月期	2026年 3月期	増減
売上高	142	166	+24
活性炭繊維 (ACF)	20	24	+4
ガラス繊維	93	109	+16
ガラスビーズ	28	32	+4
営業利益	15	25	+10

活性炭繊維（ACF）事業

空気浄化用途のVOC除去シートの販売は減少したものの、主力である浄水用途の販売は引き続き好調に推移。

ガラス繊維事業

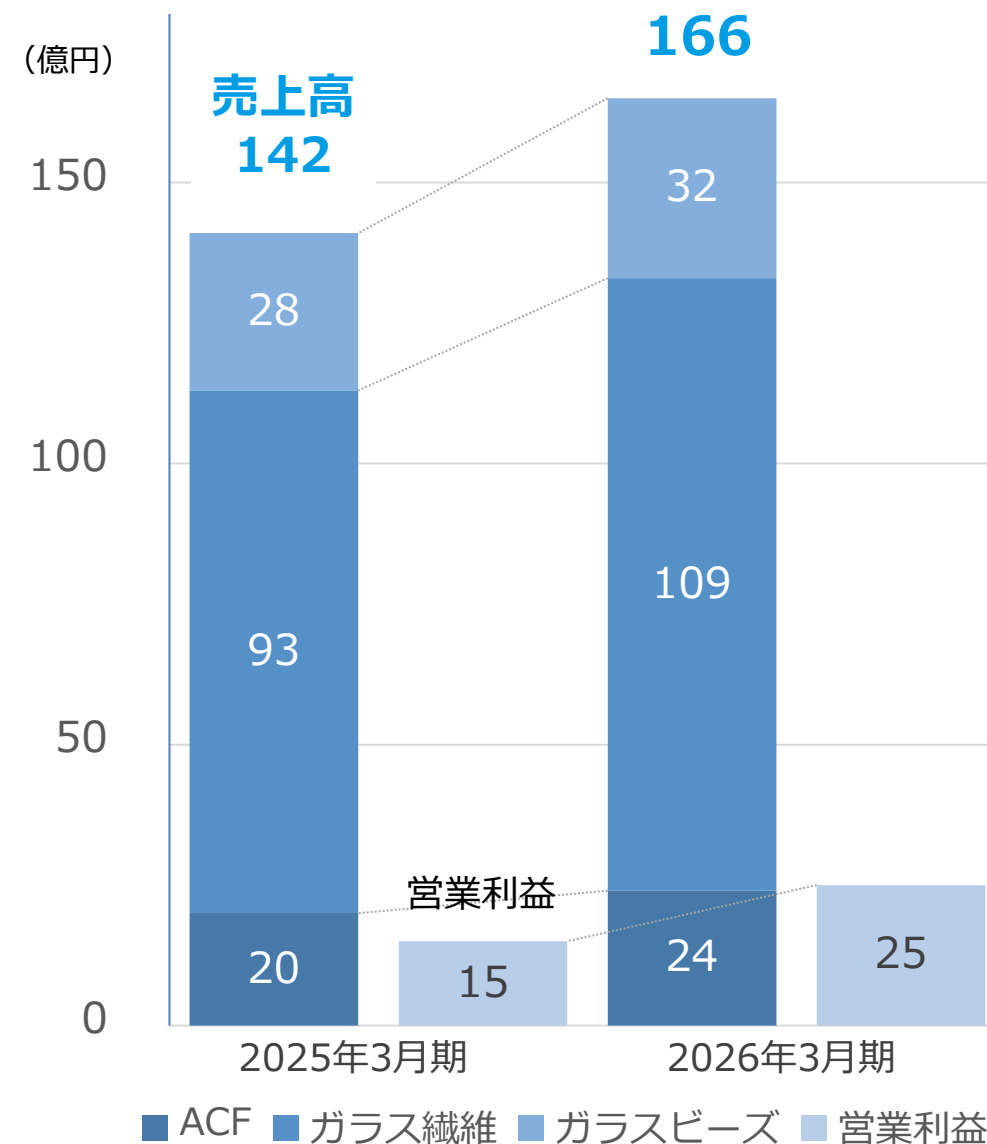
産業資材分野は、テント・シート用の不燃材料が堅調に推移した一方、透明シートは低調に推移。電子材料分野は半導体需要拡大を背景に、モバイルメモリ用途に加え非メモリ用途でも採用が進み、超極薄低熱膨張ガラスクロスおよび超極薄Eガラスクロスの販売が大幅に伸長。

ガラスビーズ事業

道路用途は工事件数の回復が進まず、海外安価品との価格競争もあり販売は減少。一方、工業用途および反射材用途の販売が好調に推移。

セグメント営業利益（継続事業）

各事業で収益は改善。特にガラス繊維の特殊ガラス品が伸長し増益。



2. 2026年3月期 決算概要 機能資材事業の状況（撤退事業）

金額単位：億円	2025年 3月期	2026年 3月期	増減
売上高	228	171	▲57
不織布	131	94	▲37
産業繊維	97	77	▲20
営業利益	▲14	▲10	+4

不織布事業

спанボンド不織布事業およびコットンспанレース不織布事業は3Qまでに事業譲渡が完了。

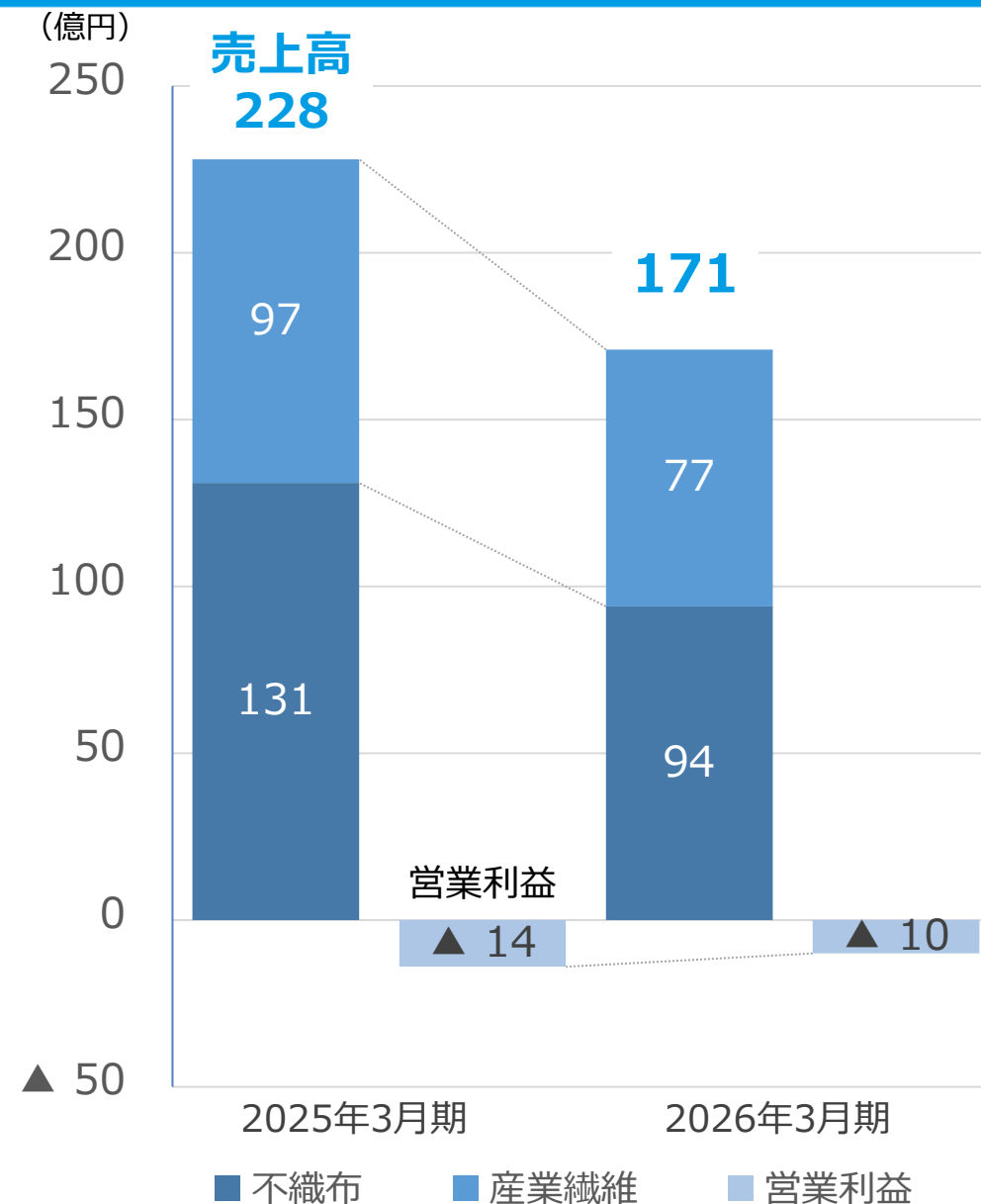
産業繊維事業

モノフィラメント事業以外の事業は、3Qまでに事業譲渡等を完了。
継続事業であるモノフィラメント事業は、好調な半導体市場を背景に、半導体製造工程における薬液中の異物除去に用いられるナイロン中空糸膜の販売量が増加。

セグメント営業利益（撤退事業）

不織布事業、産業繊維事業ともに、価格改定やコスト削減などの各種対策により営業赤字を縮小。

※産業繊維事業のモノフィラメント事業（中空糸膜含む）は継続事業



金額単位：億円	2025年 3月期	2026年 3月期	増減
売上高	339	284	▲55
衣料繊維・他	339	284	▲55
営業利益	▲4	▲5	▲2

衣料繊維事業

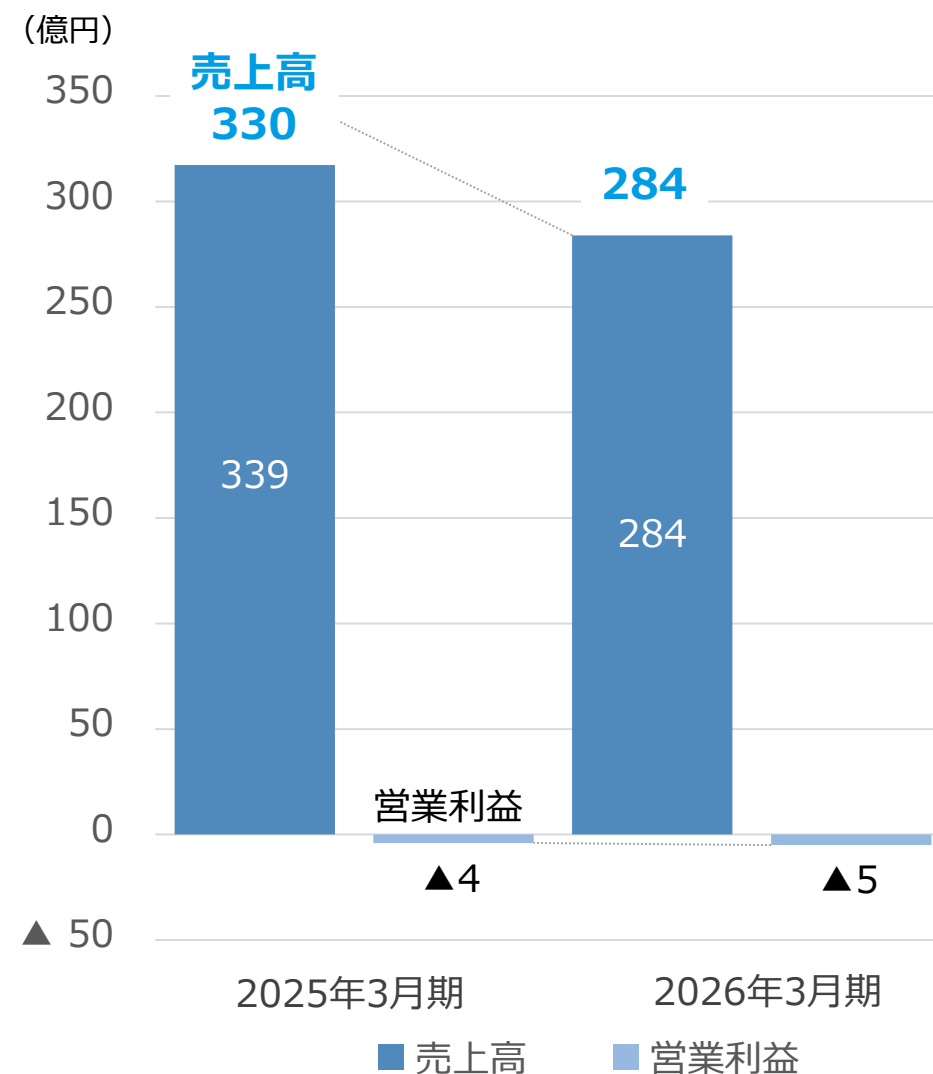
3Qまでに事業譲渡等を概ね完了。

産業資材事業

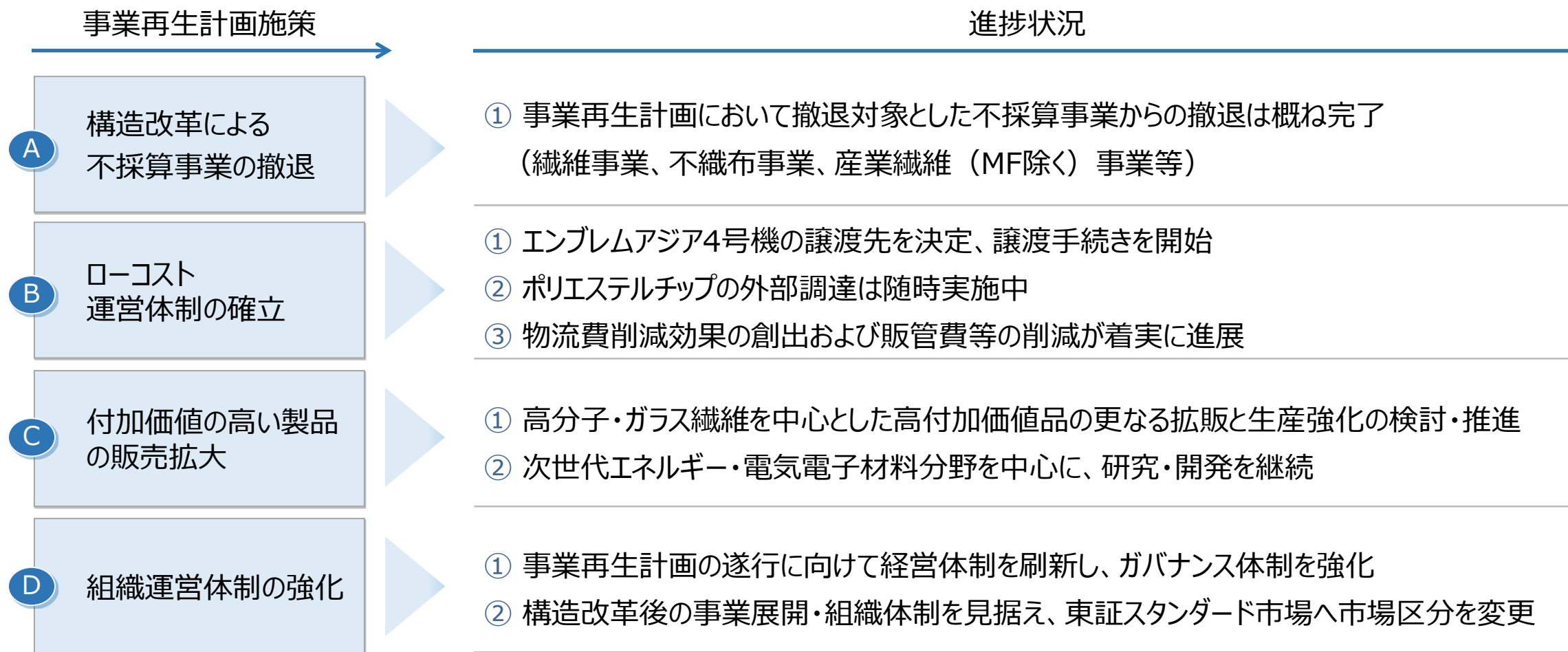
継続事業である産業資材事業では、市況の持ち直しを背景に、土木資材や生活関連用品の販売が好調。

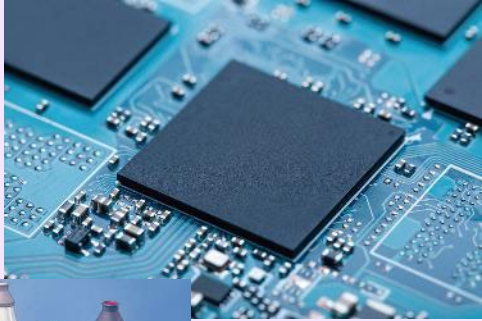




セグメント営業利益

不採算販売の見直しやコストダウン施策による改善が実現したものの、一部事業譲渡に関連する損失を売上原価に計上したため営業赤字は拡大。



- 構造改革による不採算事業の撤退は、概ね計画どおりに完了
- 今後、成長市場に向けた高付加価値商品の拡販の取り組みに注力し、収益の更なる成長を図る



	電子材料分野		包装分野
市場/用途	<ul style="list-style-type: none"> 電子・半導体材料市場 半導体パッケージ基板（メモリ、モジュール） 	<ul style="list-style-type: none"> 電子・半導体材料市場 半導体製造工程用 離型フィルム 	<ul style="list-style-type: none"> 高機能包装材料市場 食品包装用途
当社製品	<ul style="list-style-type: none"> 超極薄ガラスクロス（低熱膨張・低誘電）  	<ul style="list-style-type: none"> シリコンフリー 離型フィルム「ユニピール」  	<ul style="list-style-type: none"> ボイル・レトルト処理可能 ハイバリアナイロンフィルム「エンブレムHG」 
提供する価値	<ul style="list-style-type: none"> パッケージ基板の薄型化 寸法安定性、反り防止 低伝送損失 	<ul style="list-style-type: none"> 半導体の生産性向上 シリコンによる汚染リスクの低減 	<ul style="list-style-type: none"> 安全で持続可能な食の供給 賞味期限の延長 食品ロスの削減

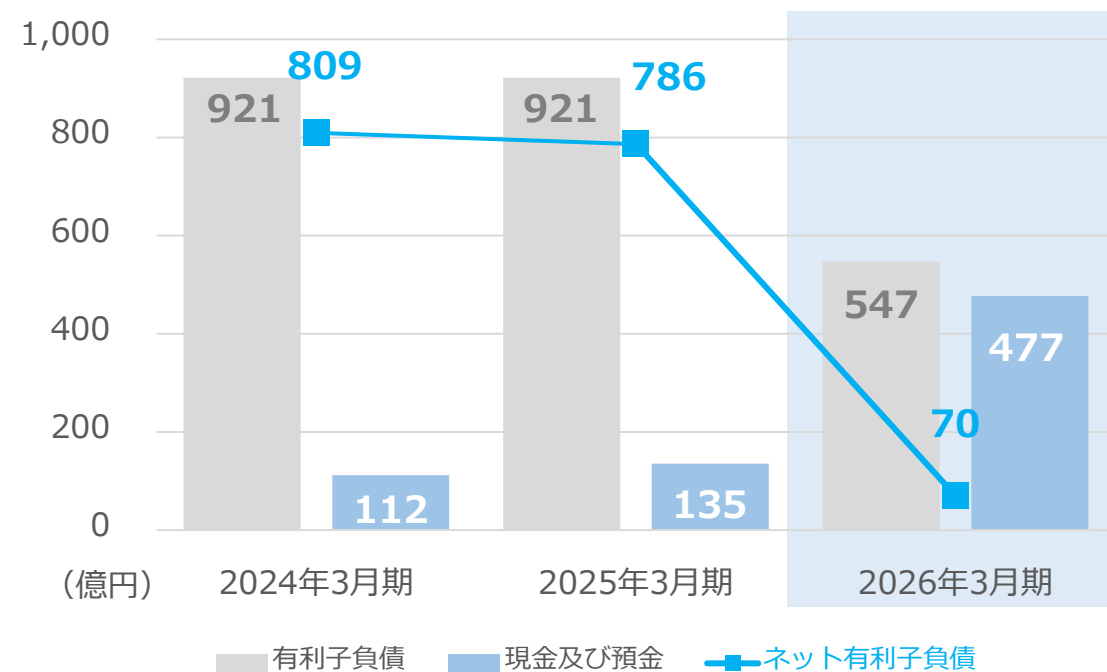
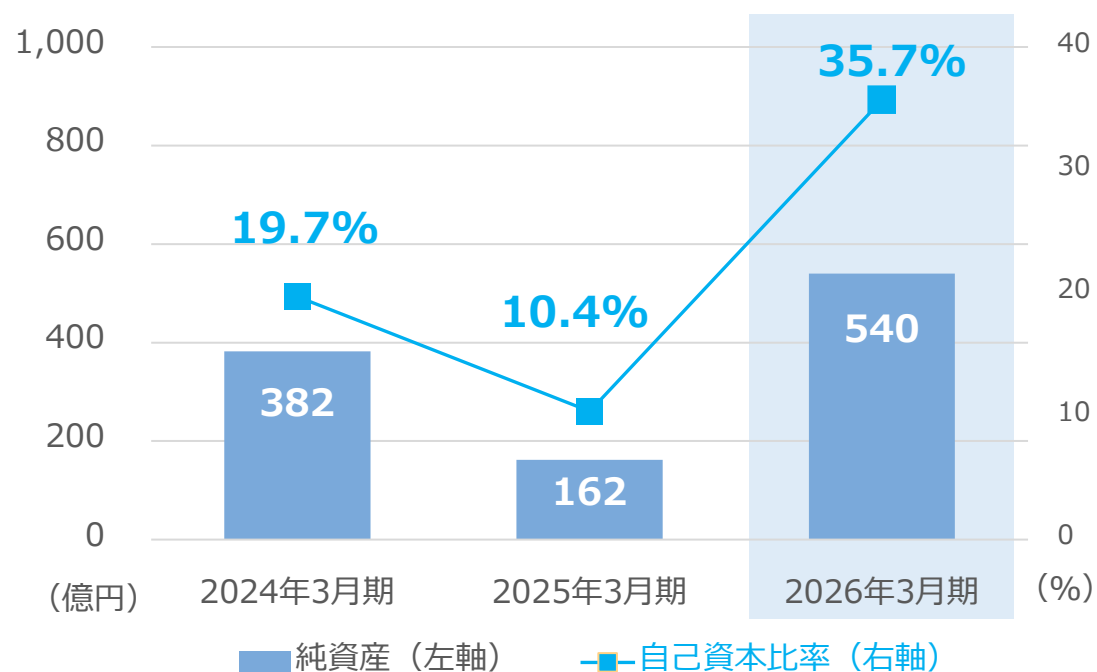
<p>市場/用途</p>	<p>次世代エネルギー分野</p> <p>グリーン水素市場向け 高性能水電解触媒</p>	<p>インフラの保守・修理分野</p> <p>構造物の補強・防水・防食用途</p>
<p>研究開発 テーマ</p>	<p><u>ハイエントロピー合金の合成技術の開発</u></p> <p>5種類以上の元素をほぼ同程度含む多元系合金であり、レアメタルを使用しない触媒材料として期待。</p> <div data-bbox="394 571 815 892"> </div> <div data-bbox="866 585 1350 878"> </div> <p>※NEDOにて水電解用多孔多元合金触媒を 産学官共同研究開発中 触媒の大量生産技術の確立担当</p>	<p><u>手塗型ポリウレタ樹脂「STERRALOCK」の開発</u></p> <p>従来のポリウレタの長所(高強度・高耐久・無溶剤)を保持しながら、硬化までの時間が長く、手塗りが可能なポリウレタ樹脂。吹付困難な形状にも対応。</p> <div data-bbox="1490 621 1885 878"> </div> <div data-bbox="1936 621 2395 878"> </div> <p>適用例</p> <div data-bbox="1439 928 1745 1163"> </div> <p>←壁や床の 補修・防水 擦過部の 保護・補強→</p> <div data-bbox="2038 921 2395 1163"> </div>
<p>提供する 価値</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・脱炭素社会の実現 ・水素製造の効率向上とコスト低減 	<ul style="list-style-type: none"> ・インフラ補修の効率化、コスト削減 ・専用吹付装置不要、施工者への教育不要

第三者割当増資による資本増強

- 地域経済活性化支援機構による第三者割当増資200億円を実施
- 増資に加え、当期純利益の計上により純資産は前期の162億円から540億円に増加
自己資本比率は前期の10.4%から35.7%まで大幅に上昇

債務免除による過剰債務の解消

- 取引金融機関による約120億円の債務免除を実施
- 資産売却に伴う借入返済が進んだことに加え、債務免除により有利子負債は547億円まで圧縮
- 利益蓄積や増資などにより現預金は477億円に増加、ネット有利子負債は70億円まで大幅に減少



(金額単位：億円)	2026年 3月期実績	2027年 3月期予想	前期比 増減
売上高	1,186	840	▲346
営業利益	105	80	▲25
経常利益	104	65	▲39
親会社株主に帰属する 当期純利益	182	50	▲132

※予想の前提

為替レート (円/米ドル)	159
原油価格 (ドル/バレル)	100

1

中東情勢の緊迫化 を受けた対応

中東情勢の緊迫化に伴う原燃料価格の上昇に対し、コストダウンや生産性向上等の合理化、価格改定等を実施し、収益影響を最小限に抑制する。現時点で調達に影響はないものの、将来的な調達の不確実性に備え、原材料の調達先拡大を推進する。

2

高付加価値製品 の拡販

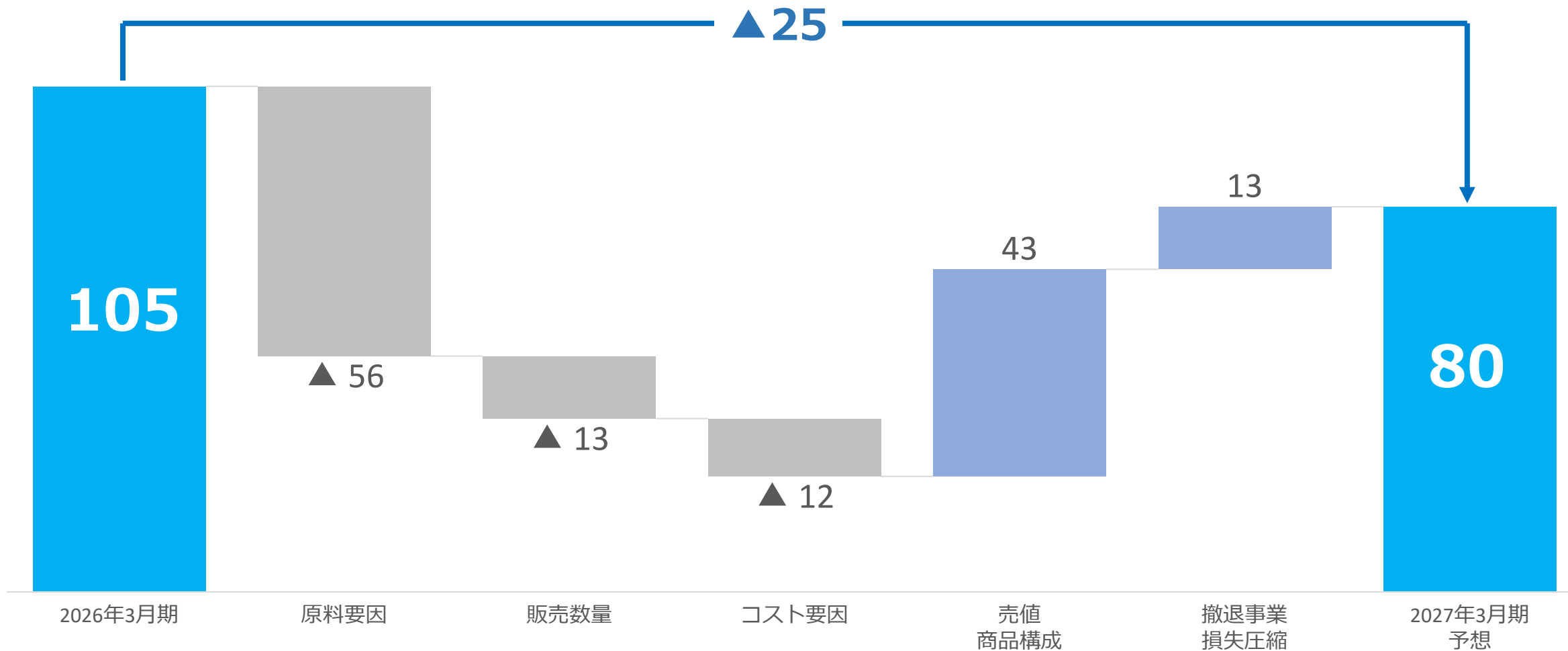
高分子事業およびガラス繊維事業を中心に、成長市場に向けた高付加価値製品の拡販を一層推進するため、生産強化に向けた各種施策の検討を進めるとともに、早期の実行を図る。

3

ローコスト運営 体制の強化

調達の最適化や生産性向上、物流・組織運営体制の見直し、販管費の削減などに引き続き取り組み、全社的なコスト構造の更なる改善を図る。

金額単位：億円



4. 2027年3月期 業績予想 セグメント別業績予想

	売上高			営業利益		
	2026年 3月期実績	2027年 3月期予想	増減	2026年 3月期実績	2027年 3月期予想	増減
(金額単位：億円)						
高分子	564	597	+33	94	60	▲34
機能資材	337	187	▲150	16	26	+10
その他*	285	56	▲229	▲5	▲6	▲1
合計	1,186	840	▲346	105	80	▲25

* 2026年3月期の繊維セグメントの数値は「その他」に含む

ご注意

本資料中の見通しや目標等、将来に関する記載事項は、
本資料作成時点において
入手可能な情報に基づいて作成したものであり、
実際の業績等は、今後の種々の要因によって、
本資料の記載事項と異なる場合がありますことをご了承ください。

		2023年	2023年	2023年	2023年	2024年	2024年	2024年	2024年	2025年	2025年	2025年	2025年
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
(金額単位：億円)													
売上高		279	301	285	318	307	309	320	329	309	312	335	229
	高分子	127	133	125	126	141	140	141	132	139	144	141	139
	機能資材	79	86	85	92	93	91	92	95	96	95	101	46
	繊維	73	82	75	101	72	78	87	102	73	73	93	45
	その他、連結調整	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
営業利益		▲7	▲11	▲8	1	12	11	21	16	28	28	34	15
	高分子	2	▲1	1	4	15	13	18	15	23	27	26	19
	機能資材	▲7	▲8	▲6	▲4	▲0	2	3	▲1	5	4	6	2
	繊維	▲2	▲3	▲3	2	▲2	▲3	0	2	1	▲2	2	▲5
	その他、連結調整	0	▲0	▲0	▲0	▲0	▲0	▲0	▲0	▲0	▲0	0	0

(金額単位：億円)

	2023年 1Q	2023年 2Q	2023年 3Q	2023年 4Q	2024年 1Q	2024年 2Q	2024年 3Q	2024年 4Q	2025年 1Q	2025年 2Q	2025年 3Q	2025年 4Q
高分子	127	133	125	125	141	140	141	132	139	144	141	139
フィルム	85	84	82	85	90	88	82	84	84	80	78	84
樹脂	32	32	35	35	34	34	35	35	36	35	37	38
その他	11	17	8	5	17	18	24	13	20	29	26	18
機能資材	79	86	85	92	93	91	92	95	96	95	101	46
ACF	5	5	5	5	5	5	5	6	5	6	7	6
ガラス繊維	20	23	23	24	24	24	23	22	23	27	31	27
ガラスビーズ	6	6	7	8	8	6	7	7	8	9	7	8
不織布	26	28	28	31	30	32	35	34	33	32	29	1
産業繊維	23	23	22	24	26	23	23	25	27	21	26	3
繊維	73	82	75	101	72	78	87	102	73	73	93	45